

# 永野小学校・学校だより(9月)

甲子園の夏と永野の夏

校長 志賀 光雄

今年も学校の花壇にひまわりの花がたくさん咲きました。

そのひまわりに見守られながら、今年も子どもたちの夏の活動が行われました。炎天下でのマーチングバンドの活動、プールでは特別水泳クラブの活動、そして、学習チャレンジや体験チャレンジ。夏休みといえども、週末を除いて、子どもたちの何らかの活動が行われ、子どもたちが登校しない日はありませんでした。土・日も地域の野球やサッカーの練習がありましたので、学校には夏休み中、常に子どもたちの姿があり、声が響いていました。

さて、この夏、全国高校野球大会の決勝戦が強く印象に残った方が多かったのではないのでしょうか。

2日間にわたった、24イニングスの文字通りの熱戦。投手が投げる一球一球のゆくえに、手に汗握り、息を呑む思いで観戦されたことと思います。

「勝負」の世界ですので、最後はどちらかが勝ち、どちらかが敗れるということになりますが、今大会の決勝戦はどちらにも優勝の栄誉を輝かせたかったと思いました。

この決勝戦のほかにも印象に残る試合がたくさんありました。特に準々決勝をはじめとして、逆転に次ぐ逆転という展開の試合に心奪われました。そこには、たとえ自分のチームが苦しい立場にあっても、決してあきらめない、自分たちの力を信じて最後の最後までベストを尽くそうとする高校生の姿がありました。

わたしには、その高校野球の選手たちの姿と本校の子どもたちの、暑い夏の熱い活動に取り組む姿とが重なって映りました。

様々な活動に取り組んでいる本校の子どもた

ちも、より上位の大会を目指して、より速さを求めて、また、よりしっかりした自分の力を身につけようと、それぞれの場で、一生懸命努力していました。高校野球のように晴れの舞台ではないけれど、一人ひとりに与えられた自分のステージで、精一杯の力を発揮しようとしている子どもたちの姿。汗だくであったり、激しい息遣いであったり、一生懸命考え込む姿であったりした子どもたちの姿は、高校球児たちと同じ、最後まで夢に向かってあきらめない、そしてベストを尽くそうとする姿でした。

わたしは、日頃から様々な機会を通して、子どもたちに「夢をもとう。その夢につながる目標をもとう。そして、そのための自分のめあてをしっかりと意識しよう」ということを言い続けてきています。そのときそのとき、自分がどうすることが、自分自身のよりよい成長につながるのかを意識して欲しいからです。

もちろん、学校での活動だけでなく、夏休みは様々な場所で、普段では経験できない貴重な体験や、自分の考え方や生き方に関わるような人、あるいは書物に出会った子どもたちも多いことと思います。そのような体験は、これからの将来を見据えた自分の夢をもつことにつながります。その夢はこれからの成長の過程で様々に変容していくことでしょう。しかし、そのときそのときの自分の夢に向かってあきらめずに努力を続ける意思と行動は、どんなときでも変わらずに大切にしたいと願っています。

9月は運動会の季節であり、また前期のまとめの時期でもあります。それぞれの場面で自分のめあてをしっかりと持ち、学習や活動に取り組む子どもたちに温かいご声援をお願いします。